

79号

2017.11.10 発行

福祉大会報告 臨時号

私が題字を書きました!



⑥ページ

蔵元 益太郎 さん

障がい福祉サービス事業所
仲間園に通所しています

風 だより が あ ま り



なかまぐん

中間市社会福祉協議会の
イメージキャラクターです。

特集Ⅱ

『障がい』とは…を考えるまえに
まず伝えたい

⑥
⑦
⑩

特集Ⅰ

第11回 社会福祉大会 開催②③⑤



目次	第11回 社会福祉大会報告 …… 2頁	知ってほしい「親の思い」 …… 7頁
	表彰者紹介 …… 3頁	歳末たすけあい募金はじまります …… 8頁
	協力団体紹介 (なのみ園・北九州高等学園) …… 4～5頁	お知らせ・寄付のお礼 …… 9頁
	蔵元さんはこんな風に日々暮らしています …… 6頁	“居場所”があるって しあわせ …… 10頁

発行者

社会福祉法人中間市社会福祉協議会

〒809-0018 中間市通谷一丁目36番10号 TEL 244-1230 FAX 244-1232
ホームページ <http://www.tip.ne.jp/nakamasisyakyou>

1

「みなさまからいただいた賛助会費を福祉大会で活用させていただいています。」



福祉大会 開催

10月7日（土）早朝に降った雨はどこへやらというほど、日中は夏のように暑い一日でした。この日、第11回社会福祉大会が開催されました。大会参加者は来賓も含めるとおよそ300名。

大会宣言に表彰式、大正琴のレクリエーションと続き、最後に、大分大学福祉健康科学部学部長の衣笠一茂先生による講演が行われました。

講演は「相互に支え合う地域社会」～住民協働の地域福祉～と題し、講師である衣笠先生の経験等を交えて、わかりやすくお話ししてくださいました。

私達が印象に残っているのは、様々な困りごとや課題が発生した際に、自分自身や家族等で何とかしようとする**自助**と行政や専門職による制度やサービス等の**公助**だけではどうにもならない部分があるということ。だからこそ地域の住民同士の声掛けやできることの支援**互助・共助**が求められているという部分です。



次につなげるために…

参加されていない方にもお伝えしたいことは、自治会長や民生委員でなくても、地域みんなが自分の身近に困っている人はいないだろうか？手助けを必要としている人はいないだろうか？と

気にかけておくということ

がすごく大切なのではないかと思います。助けてもらう側は、「本当は少し手助けしてほしいと

思っている、ちょっとしたことなので申し訳ないと思ったり、自分から「お願い」というのは言いにくい」ということも理解しておかなければならないと思うのです。そういったことを**気兼ねなく言える関係**が自然とできていけばと思うところですが、「思う・願う」だけでは始まりません。アパートや団地では「隣の人の顔も見たことがない」ということもあります。まず一步、「これだったら負担なく手助けできるよ」とお互いに伝えておくということ。そういったことを日々の関わりの中ではぐくんでいってほしいと思うのです。身近なところでは、ゴミ捨てや電球を替えるなど、

今、自分が困っていなくても、10年後20年後、困るかもしれないですよ。

表彰式後のレクリエーションとして、♪見上げてごらん夜の星を♪など6曲の大正琴の演奏を披露してくださいました。

彩音会の活動は多岐にわたり、大正琴の教室のほか、福祉施設等への慰問、また敬老会などイベントへの参加もなさっておられます。

大正琴の美しい音色が会場に広がり、ゆったりとした心地よい時間で、場が和みました。

大正琴 彩音会 福岡支部



表彰者

中間市EM普及会 会長 松田 和也 氏



毎年福祉大会では、福祉活動やボランティア活動に貢献してくださっている方を表彰させていただいております。松田氏は、平成15年より中間市の環境保全活動の一環としてEMの普及活動にボランティアとしてご尽力いただいております。

「EM」って何かご存知ですか？

簡単に言えば、暮らしを助ける微生物だと言えます。身近なところで言えばパンやヨーグルト、納豆、みそ、酒などの発酵食品は微生物（こうじ菌・乳酸菌・酵母菌など）によって構成されています。それは人間にとって、とても身近な存在です。環境を良くし、動植物の細胞を活性化する働きをもつ酵素や生成物を作り出す微生物もいます。人間にも自然環境にも役立つものを有用微生物といい、こうした複数の役に立つ微生物を組み合わせたものがEMなのです。

EM活用法いろいろ



EM=有用微生物群



取材当日EMを購入しに来られた方の声

「たい肥づくりに利用していますが、野菜がすごく元気になるからいいですよ～」とのことでした。

現在松田氏は88歳。前職で微生物の取り扱いに慣れていた実績もあり、中間市でEMの普及活動が婦人会の手によって進められたのち、松田氏に話が来たのが平成15年。その後EMを川に流すことで、河川の汚れをきれいにする活動等を市の事業として取り組み、現在も要請に応じ、環境美化活動の一環として、市内の小学校等で出前講座を実施したり、花や野菜を元気に育てる家庭菜園についての講座なども開催されています。松田氏と入門講座で知り合った方はEMの普及活動に賛同してくださり、共にボランティア活動を進めていってくださっています。9月には中間北小学校・さくら保育園の子どもたちと共にEM入りの泥だんごをつくって川へ投入する活動も行いました。

毎週金曜日9時～中央公民館横のEM工房で活動しています。購入もできますし、ご興味のある方はどうぞいらしてください。

ボランティア募集中
TEL 090-1199-2958 松田まで

**野菜づくりのコツ
教えてもらえますよ♡**



時間のある中高年のおじさま おばさま方一緒に活動しませんか？



★障がい者支援施設 **なのみ園**（上底井野）



大会当日、利用者さんと一緒にパンの販売に来ていただきました。食パンに絶品のりんごクリームパン。他にもいろんなパンが並びます。利用者さんの呼び声もあって、あっという間に売り切れてしまいました。購入した食パンを食べられた方は、焼かなくてもふんわりとしておいしかったし、子どもはラスクなどべろりと食べてしまって私の分は早々になくなっていた（笑）とお母さん。また、他の方は素朴な感じで食べやすかったのもまた買いたいとのことでした。

障がい者支援施設なのみ園は障がいのある方の施設です。生活介護事業の中で自立した日常生活や社会生活を送ることができるよう、生活能力の向上のために必要な訓練などを行っています。また、生活介護事業の活動の一つとして、なのみ園ではパン作りをしています。

敷地内にパン工房が設置されており、平成21年3月からパン製造と袋詰めなどを行っています。教えてくださる先生はというと、近所にお住まいの和田さん。以前パン屋さんだった和田さんがボランティアで教えてくださっています。今では和田さんが何も指示しなくても、利用者さんたちは自分の役割が分かっています。おしゃべりをすることもなく黙々と作業を続けます。まず工房や道具の清掃からはじまり、パン製造などの作業に入ります。取材当日は、焼きあがった食パンの袋詰め作業が行われていました。まず袋に商品名などの入ったシールを貼り付けます。斜めにならないよう真剣です。その間、支援員（職員）が6枚に切り分けた食パンを、きれいに袋に入れていきます。それまで清掃作業をしていた他の利用者さんは、食パンの入った袋の口を丁寧に閉じていきます。真面目で一生懸命、丁寧な仕事ぶりに指導者の和田さんも太鼓判です。



パンづくりという生産活動を通して、物をつくることの喜びと達成感へつながられるよう、一人ひとりに合ったサービス提供と生活環境づくりに取り組んでおられます。



おいしいですよ～(笑)



**「なのみ祭」や地域のお祭、
毎年の福祉大会等でパンの販売を
しています。**

**『こだわり食パン』は材料にこだわって、まじめにつくった
食パンです。さくら館（垣生）で販売中。どうぞご賞味あれ♡**



★北九州高等学園（大辻町）



福祉大会当日は窯業担当の先生方が販売にいられていましたが、どれも立派な器ばかり。1年生から3年生までの窯業を選択している生徒さんによる力作ぞろいです。

器好きの参加者また社協職員もこそってお気に入りの器を買いあさっていました。購入された器が地域の方々に役立てられ、また学生さんたちの「やる気」へとつながればと思うところです。

校訓は 体力・気力・協力

北九州高等学園とは県立の特別支援学校で知的障がいのある生徒を対象とした高等部単独の学校です。高等学校に準じた能力を培うとともに、生徒一人ひとりの特性に合わせ個人の良い部分を最大限引き出し、社会生活に必要な態度、習慣や技能を身につける取り組みを通して、社会的に自立できるよう育成することを方針として平成5年に創設されました。校訓にもあるように、体力をつけるために、1年生から3年生までどの学年でも授業のはじめにはラジオ体操に、土嚢袋の移動運動、筋トレが取り入れられています。先生にお話を伺うと、卒業後の就職先では作業等により体力が問われる現場が多いということから、このような取り組みをなさって



いらっしゃるとのことです。1年生の頃

には音をあげていた生徒も3年生にもなると、軽々こなせるようになるとのこと。「継続は力なり」ですね。また、就職後よく使う言葉として「あいさつ^{イレブン}」を実行されています。「もう一度お願いします。」や「終わりました。次は何をしたらいいですか。」など基本的なことですが、とても大切なことだと思います。作業前には身だしなみチェックや一人ひとり今日の目標を発表して、それに向かって作業を進めていきます。



秋は学園祭など様々な催しがあり、それに向けて窯業コースの生徒さんも大忙しです。その一つに福祉大会があります。福祉大会では地域の方の参加が多いため、様々な用途のお皿類が並びます。ワンプレート式のお皿やどんぐりの形のお皿、特徴的な絵柄の入ったものなど様々です。学園祭は終わってしまいましたが、大辻町自治会の文化祭が18日、19日と開催されます。そこで購入することもできます。取材当日は一人ひとりそれぞれの能力にあった作業、例えば焼き物用の純度の高い泥にするための泥をこす作業から、マグカップや皿に成形する作業、素焼き後の磨き作業に来年の干支「戌年」の置物の色付けにデザインの筆入れと様々です。筆入れは綿棒を使っての作業ですが、見本を見ながら集中して作業していきます。どの作業も根気のいるものばかりです。このような様々な作業を通して、社会に巣立ち自立して生活を送ることのできる人材が育っていくのですね。生徒さんに話を聞くと、「集中ができるようになった」や「仲間ができた」と話してくれました。



大辻町文化祭 大辻公民館にて
11/18(土)10:00~18:00
11/19(日)10:00~15:00

それぞれ 目標に向かってがんばっています！



「障がい」とは… を考えるまえに まず伝えたい

「障がい」だけでなく、それも含めたその人自身をみてほしいのです！

地域の中には、様々な方が暮らしていらっしゃいます。子どもに赤ちゃん、そのお母さんやお父さん。そしてその家族。おじいさんにおばあさん。様々な世代のみなさんが社会を、地域を形成しています。その中には「障がい」のある方もいらっしゃいます。

「障がい者」「障がい児」について、ニュースや自分の思い込みで偏った見方をしている方はいませんか？その障がい者は両親からすれば、かけがえのないわが子であるし、祖父母から見ると孫だし、近所のおばちゃんからすれば近所の〇〇くん〇〇ちゃんなんです。障がいのある「その人自身」「その子自身」を知らないから、自分とは違う特別な人ということになるのです。

障がいをおってしまう経緯は、それぞれ生まれつきだったり、けがや病気によって、またストレスなど様々ですが、みなさん、そうなりたくて、選んでそうなった訳ではないですよ？そんな方々の「障がい」の部分だけを見るのではなく、一人の人として見てほしい。接してほしいと思うのです。

表紙の題字を書いてくれたのは、蔵元さん 蔵元さんはこんな風に日々暮らしています

蔵元さんは48歳。扇ヶ浦にある、障がい福祉サービス事業所「仲間園」に20歳から通所していらっしゃいます。蔵元さんには、軽度の知的障がいと下肢の障害がありますが、就労継続支援B型事業の一環の生産活動として菓子箱づくりにおける、検査員の役割を果たしていらっしゃいます。取材当日、実際に検査してボツになった箱を見せてもらいましたが、私がいくらじっくり見ても見抜けなほどの小さな亀裂を見抜いて取り除いておられました。職員もその正確さに太鼓判。ご本人も自信を持ってその作業に取り組んでおられました。



真剣です



秋元指導員とハビネスで！
なかよし親子みたい!?

プライベートで今一番がんばっていることを伺うと、「散歩」と返事が返ってきました。もともと足が悪く、仲間園にも杖で来られていますが、最近では毎日夕方になると、お母さんと一緒に散歩に行かれるそうです。今年7月からは筋力アップのために毎週末ハビネスなかまのプールにも通っておられます。最初は指導員がついて歩いていましたが、今ではご自分だけで歩いているので、欲が出て、大きなプールに行ってみたいと要望がどんどん広がっているようです。指導員の秋元は「まだ早い(笑)」と止めたそうですが、目標を持つのはいいことだと思います。

最近では、杖はお守り程度になりつつあるようですよ。(笑) お母様も蔵元さん本人が何ごとも一生懸命、そして楽しんで頑張っておられる姿を見て、嬉しそうでした。



蔵元さんも通所している 障がい者支援施設 仲間園



菓子箱づくりの作業中

主に「知的障がい」の方を対象としています

仲間園では通所の生活介護事業と就労継続支援B型事業を提供されています。今回蔵元さんの取材でお世話になった部門は就労継続支援B型事業です。こちらでは、利用者の自立した生活ができるよう、就労や生産活動を通じ、作業意欲と技能の向上を目指しています。

作業を通して、生活習慣やコミュニケーション能力、協調性などの社会適応能力を育成するべく、利用者一人ひとりの適性に応じた作業を行っておられます。取材当日は、B型事業の多くの方は菓子箱づくりを一生懸命なさっておられました。何人かに話を伺うと、どの方も自分の仕事に自信と誇りを持っておられ、作業内容を詳しく教えてくださいました。みなさん真剣で、一生懸命な姿が印象的でした。

また、菓子箱づくりだけでなく、中間市のやっちゃん祭で販売するビーズのプレスレットをつくっている方もいらっしゃいました。細かい作業なので根気がいりますが、おしゃべりするわけもなく、黙々と作業しておられました。



小さなビーズにテグスを通します

社会福祉法人
仲間会

- 仲間園（生活介護事業・就労継続支援B型事業）
- 短期入所事業（ショートステイ）
- 地域生活支援事業（夏・冬休み期間など日中お預かり）
- 相談支援事業
- 共同生活援助事業（グループホーム）

知ってほしい『親の思い』

この度、「障がい」の特集を企画しようとした時、当事者のことだけでなく、その家族・親の思いを地域の方にも伝えたいという思いがあったので、親の会や施設関係者に依頼していましたが、文章を書いてくださる方がなかなか見つからず肩を落としていた所、「いいよ」と言って下さる方があり、現在の心境をつづっていただくことができました。

娘を障がい者施設に居住させている父親です。高齢となり、先々娘の後見人の申請が必要と思い、ウェル戸畑や小倉の家庭裁判所へ出かけ、後見人申し立ての準備をしていました。そう決心した経緯は、私が極度に歩行困難となったことで、娘の支援に困窮していたことにあります。縁あって、ある団体の協力を得て、家庭裁判所に申し立てしたところ、「後見」の判断が下り、昨年秋より後見開始となりました。後見人は、娘の生活・療養・財産管理等のほか、施設の各種イベント・保護者会総会にも参加してくれ、お陰様で娘はより一層元気で暮らしております。私も自身に注力でき、生活の質も向上しました。

中間市在住87歳 父

障がいのある子どもを持つと、両親は様々な葛藤にぶちあたるのではないかと思います。この方も、娘さんを施設入所させる際も様々な事情があったそうで、娘のことを思い眠れない夜もあったのではないかと推察されます。人生の様々な出来事とともに、娘さんの存在が常にあり、そして様々な困難や葛藤を乗り越えられて現在があるのだと思います。





街頭募金にご協力ありがとうございました



今年も10月1日より全国一斉に赤い羽根共同募金運動がはじまりました。
街頭募金から運動をスタートし、イオンなかま店、通谷電停、さくら館にて募金活動を行いました。

当日は、子どもから高齢者までたくさんの方が足を止め、募金に協力していただきました。

「今日から？」と募金をしてくださる方、
「ご苦労さま」と声をかけてくださる方、
短い時間ではありましたが、たくさんの優しさに出会う時間となりました。

今後も募金の使い道を分かりやすくお伝えし、
この募金の必要性に共感していただけるよう
取り組んでいきたいと思ひます。



▲一緒に活動していただいた
中間高校のみなさん！



12月から歳末たすけあい募金が始まります



歳末たすけあい募金は、新たな年を迎える時期に、
支援を必要とする方が安心して暮らすことができるよう、
あたたかい心をおくるための募金活動です。

この運動は昭和初期、「みんなで明るいお正月を迎えよう」
という気持ちから「一品持ち寄り運動」として

困っている人のために皆が協力してお餅等を少しずつ持ち寄っていたことが始まりです。
使い道を広げるため募金という形で寄付を募り、1959年、歳末たすけあい募金が
共同募金運動の一環として位置付けられた、地域での取り組みが制度となった活動です。
誰もがこの町の一員として孤立することなく、安心して暮らすことができる地域づくりへ、
ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



歳末たすけあい募金は

このような取り組みに活用します

- ◆ 福祉施設・当事者団体へのお見舞金贈呈
- ◆ 障がい児・者通所事業所の歳末福祉行事
- ◆ 当事者団体の歳末福祉行事
- ◆ 支援が必要な方へのお見舞金贈呈
- ◆ 福祉施設への年賀状配布
- ◆ ふれあい・いきいきサロン活動



心の無料相談 専門カウンセラーにお話ししてみませんか？

不安な気持ちで
落ち込んでいる

自分自身の気持ちを
整理したい…

家族のことで
悩んでいる

とにかく話を
聞いてほしい

カウンセリングを
体験したい



- 日 時 **11月25日(土)** 10:00~16:00まで
- 内 容 カウンセリング(1人50分程度)
- 場 所 ハピネスなかま1階相談室
- 申込期間 11月22日(水)まで 電話予約制(先着10名)
- 申込み先 中間市社会福祉協議会

受付窓口 **バルハウスぼちぼち** Tel.243-3387

※心の無料相談は、専門のカウンセラーと一緒に、あなたの悩みや思いを振り返るなかで、あなた自身の中にある答えや解決の糸口を見つけ出すお手伝いをするものです。法律的な問題を解決するものではありませんので、あらかじめご了承ください。

一人だけの金婚式

本来ならば連れ合いと共に50年の金婚式をお迎えになられるはずだった方々へお気持ち程度ではございますが、祝宴を催したいと思えます。

平成29年12月5日(火)

11:00~14:00(受付10:00~)

ハピネスなかまにて

- 対象者：昭和41年1月1日~昭和42年12月31日までに結婚し、引き続き現在まで中間市にお住まいの方。(※昨年は開催を見送りましたので2年間となります。以前ご参加された方はご遠慮ください。)
- 受付期間：11月10日(金)~11月27日(月)
- 申込先：中間市社会福祉協議会(中井) ☎244-1230

在宅介護者のつどい クリスマス会

平成29年12月19日(火)

10:30~12:30

ハピネスなかま1階 会議室1



在宅で介護をなさっているみなさ~ん。365日休みなし。お疲れ様です。今回のつどいはクリスマス会を計画しています。ほんのつかの間ですが、顔を出してみませんか？当事者同士、意見交換や情報共有などをしてリフレッシュしましょう！

申込締切：12月15日(金) 社会福祉協議会 ☎244-1230 (高崎・松本・川口) まで

住民の皆様からご寄付いただきました。心より厚くお礼申し上げます。

香典返し

つぎの方がたから、社会福祉協議会にご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。
(平成29年9月15日、10月11日受付分)

故 藤野 初子 様
故 藤野 フミ 様
(松ヶ岡)

故 鬼塚 暁子 様
故 鬼塚 理彰 様
(東中間二丁目)

故 下田 博美 様
故 下田 大 様
(十手ノ内一丁目)

故 俵 邦子 様
故 俵 正學 様
(深坂一丁目)

香典返し寄付金・篤志寄付金は中間市社会福祉協議会で受付しておりますので、よろしくお願ひ致します。

中間市社会福祉協議会
中間市通谷一丁目36番10号
電話093-244-1230

寄付のお礼



“居場所”があるって しあわせ



※市内在住の姉妹にご協力いただきました。

絵 みーもん



松つつんのひとり言

唐突ですが、誰もがいつなん時「障がい」をおってしまうかわかりません。自分には関係のないことだと思っていませんか？交通事故やスポーツ等で身体障がいにまた、病気から内臓疾患による障がい、ストレス社会や人間関係で精神を患うこともあり得ます。高齢になれば足腰も弱ります。明日は我が身なのです。

障がいの特徴はそれぞれありますが、障がいがあるとかないとかじゃなく、その人自身がどんな人で、何が得意で何が苦手なのかということなんです。そう理解すると、偏見ではなく、お互いに助け合える地域・社会の輪が広がっていくと思いませんか？そんな地域が広がれば、いつなん時の「その時」が来たとしても「安心」ですよ。一年一年必ず年はとるのだから、将来困るかもしれない自分のためにできることを今からやっていくことが「保険」になるかもです（笑）